「馬城会報」　第５０号



馬城会報

発行所
福島県立相馬高等学校
馬城会
相馬市中村字大手先57-1
ＴＥＬ 0244-36-1331
ＦＡＸ 0244-36-6149
発行人
馬城会長
村山正之
印刷人 中村印刷㈱

## 美しいと感じる心を

会長　村山正之

『馬城かわら版』を相馬高校ホームページ「卒業生の皆様へ」の中に入れて頂いている。昨年二月の理事会で同窓会の活性化について話し合ったことがきっかけである。

そこで「相中相高八十年」「相中相高百年史」などの記述を、自分なりに選択し、学校史を辿りたいと思った。当時の生徒の純粋な心の動きを表す手記も多数載せてある。時代の空気感が濃く漂い、歴史門外漢の私にも興味を持って読むことができた。

▼2018（平成30）年登録有形文化財『旧福島県立相馬中学校講堂』

相馬中学の創立は、日清戦争後間もない時期であった。約十年後には日露戦争、更に十年も経たないうち、第一次世界大戦にも参戦している。大戦後、初の社会主義国ソ連が誕生、一九二九年の世界大恐慌、莫大な賠償金で疲弊したドイツ復活を説くヒトラー政権が生まれ、それが次の大戦の火種となった。一方、一九三七年日中戦争が始まり、三九年に第二次世界大戦開戦、四一年には太平洋戦争に突入、長く続いた戦争が終結したのは一九四五（昭和20）年である。

何と、創立から半世紀の間、日本は、ずっと近隣諸外国と緊張状態が続き、何度も戦争があり、学校教育はその雰囲気の中で行われてきた。

兵器の力を借りた人間が、人の命を虫けらのように奪うことを正当化してしまう戦争こそ人間の一番の罪である。歴史は、権力を握ると、他を抹殺する人間が出てくることを物語っている。

国家は一人一人の命に責任など持ってはくれない。戦後、敵国と最も親密になったりするように普遍性もない。恐怖と悲惨な戦争の後に残るのは、いつも、理不尽に命を奪われた数千万の家族の慟哭だけである。

このような戦いを避けるにはどうしたら良いのだろうか。異質なものを排除しない社会に民主主義と政治を成熟させていくこと。ホモサピエンスに与えられた根本の感覚、一瞬の動き、一つの言葉、音楽、芸術、建築、大自然、生命を形づくる構造、そして人間そのものなど美しいものを美しいと感じる心を大切にすること。これらが出発点になるのではないだろうか。

第二次世界大戦中に制作されたチャップリンの映画「独裁者」の一シーンに『私たちは皆、互いに助け合いたいと思っている。人間とはそういうものだ。相手の不幸でなく、お互いの幸福によって生きたいのだ。』というスピーチがある。

戦後七十年以上、民主主義下の日本に戦争がないのは本当に幸福なことです。

物質文明を享受している人類が必ず遭遇する戦う相手は、大災害やパンデミックです。

新馬城会員の皆さんの物語はこれから綴られていくのです。君たちに日本と地球の美しい未来を託します。

ご卒業おめでとうございます。

## コロナ禍における本校の取り組み

校長　菊田勇雄

馬城会の皆様には、日頃より本校の教育活動に対しまして、多大なる御協力と御支援を賜り、心より感謝申し上げます。

さて、令和二年度は新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、学校を取り巻く環境が一変しました。緊急事態宣言による臨時休業、学校再開迄の分散登校、部活動の制限、感染予防を図る新しい生活様式に沿った教育活動など、一年前には考えられなかったことが起きました。その間、学校行事は変更または中止を余儀なくされ、インターハイをはじめとする各種大会も中止になるなど、異例の事態となりました。その後、教育活動が平常に戻りつつありましたが、年末から年始にかけて感染拡大の第三波が到来しています。それを受けて政府は、東京や神奈川など一都三県に緊急事態宣言を再発令し、さらに七府県にも追加発令しました。今まさにパンデミックの只中にあります。

このように、今年度は先が見通せない困難な状況にありましたが、生徒たちは現実を受け入れ、若い力を存分に発揮し、学業と部活動に励みました。学習活動では授業を通じて学力向上を図るとともに、イノベーション・コースト構想事業に係る教育プログラムにおける探究学習にも取り組み、予測困難な社会を生きるための資質・能力の育成に努めました。一・二年生は震災からの復興や持続可能な社会の構築に関する課題研究に取り組んでおり、さまざまな事象から問題を発見し、仲間と対話しながら課題を解決しようとする姿勢が少しずつ育っています。

三年生の多くは総合型選抜や学校推薦型選抜で大学に合格しています。今後は一般選抜で大学を目指す生徒たちが、先日行われた大学入学共通テストと、大学ごとの個別の学力検査を経て、合格を勝ち取ってくれると信じています。

部活動では代替大会等が行われ、水泳が東北大会で好成績を収め、バレーボール・陸上競技・サッカー・バスケットボール・野球・テニス・柔道・剣道・卓球・ソフトボール・バドミントンが県大会に出場しました。陸上女子五千メートル競歩で優勝した荒ひかるさんは、全国大会出場に相当することから、文部科学大臣特別賞を受賞しました。また、出版局が全国総文祭にweb参加し、相馬太鼓部・放送局が東北大会に出場しました。

学校行事については、感染防止策を講じながら、出来る限り実施する方向で対応しました。特に印象深かったのは、三年に一度の馬陵祭を変更して実施された体育祭です。「輝け若駒！僕らが描く新たな青春」をテーマに、全校生が学年横断の四チームに分かれて得点を競う形式で行われました。各競技に加えて書道部のパフォーマンスや有志によるステージ発表を取り入れるなど、文化祭の要素を加味したプログラムにより大いに盛り上がりました。クラスTシャツを身にまとった生徒たちが競技に汗を流し、自分のチームを必死になって応援する姿は、草原を躍動する若駒のようでした。「学年の壁を越え、親睦を深め、団結力を高める」という所期の目的が見事に達成され、相高生の創意工夫と力強さを実感した体育祭でした。次の一首は私が閉祭式で詠んだ短歌です。

『炎天に若駒の聲谺して相高生の意気盛んなり』。

高校三年間は生徒たちの人格形成と進路選択にとって重要な時期です。学校としても、生徒一人ひとりが文武両道を目指す中で、豊かな人間性と高い知性を身につけられるよう教育活動を展開するとともに、教育環境の整備に努めてまいりたいと思います。

結びに、同窓生の皆様のますますの御健勝を祈念申し上げるとともに、今後も母校への変わらぬ御支援を重ねてお願いいたします。

# 各支部の動き

◇ 新型コロナ感染防止により、馬城会総会も書面会議という形を取らざるを得なくなり、多くの支部の会合が延期および中止となりました。
◇ 例年ならば、「各支部の動き」で、会員の皆様の活動状況を報告させていただいておりましたが、このような状況ですので、ご連絡いただいた支部のみ掲載させていただきました。
◇ 新型コロナの収束を祈るばかりです。

## ●仙台支部

仙台支部（佐藤昌利支部長）は、令和2年4月25日(土)に例年通りの総会開催を予定していましたが、全国的な新型コロナウイルスの感染状況に鑑み、急遽秋まで延期することといたしました。その後も開催に向けて、感染状況を注視しておりましたが、宮城県・仙台市においてもなかなか感染が沈静化しないことから、10月12日(月)の支部役員会において令和2年度の支部総会の開催中止を正式決定いたしました。

支部の会員の皆様と顔合わせができないことは、大変残念なことですが、生命と健康の保持を第一と考えての決断ですので、ご理解を頂きますよう説明をいたしております。

なお、新聞報道等でご承知とは思いますが、当支部会員の弁護士荒中氏（昭和48年卒）が激戦の末、日本弁護士連合会の会長に選任され、4月1日に着任しましたので、報告いたします。相馬高校、馬城会にとっても大変な名誉と存します。

### 荒中（ただし）氏 日本弁護士連合会会長就任

仙台支部会員の弁護士荒中氏（昭48理卒）からご挨拶文をいただきました

弁護士　荒中

新春を迎え、馬城会の皆様におかれましては、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、これまで私が日弁連の副会長、事務総長として活動するに際し、皆様からはお祝いの言葉を頂戴し、ご支援、ご協力をいただきましたこと、改めて御礼いたします。

また、昨年4月から日弁連の会長に就任し、再び主として東京を拠点として活動することになりましたが、馬城会の多くの皆様から重ねてお祝いの言葉を頂戴しましたこと、心より御礼いたします。

私は、東京の3弁護士会と大阪弁護士会の4会以外から34年ぶりに選任された会長ですが、私が会長に就任した直後に新型コロナウィルスによる感染症が拡大したことから緊急事態宣言が発令され、様々な制約を受けながら活動することになりました。

しかし、相馬市で生まれ育ち、仙台で40年近くも弁護士として活動してきた私は、東日本大震災が発生した後は被災者の一人として市民や事業者の方々の支援を継続してきましたので、その経験を生かしながら、現場の声に謙虚に耳を傾け、政策提言を行い、法制度の運用改善、支援策の立法化に向けた作業を精力的に行いたいと思っています。

幸い、全国市長会の会長を務める立谷さん（相馬市長）とは従前より色々意見交換を行い活動してきた間柄であることから、今後も密接に連携し、再度発令された緊急事態宣言の中にあっても、引き続き市民や事業者の支援のための活動を展開していきたいと考えております。

皆様におかれましては引き続き、ご支援、ご協力をお願いいします。

最後になりましたが、馬城会の皆様方の益々のご健勝を心より祈念します。

## ●福島支部

会員諸兄には大変な状況下それぞれ頑張っていることと拝察いたします。

馬城会福島支部では、令和2年10月16日に大谷前支部長も参加して拡大役員会を開き今年の福島支部総会の開催等を検討いたしました。

その結果、コロナ禍で支部会員の高齢化も考慮し、残念ながら今年の支部総会の開催は見送ることにしました。忘年会の話も出ましたが、これもとり止めになりました。早期にコロナが撃退され、支部活動が再会されることを期待しております。

村山会長始め菊田校長、会員諸兄にはコロナに十分注意され、馬城会活動が益々活発になることを祈念しております。

## ●原町支部

原町支部は、例年母校の創立記念日にあたる5月7日に総会を開催して来ました。

今年度は現下の新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から三役会を急遽開き、苦渋の決断として支部総会中止を決定し全会員に通知連絡しました。毎年30名近くの会員の出席がありました。その後、支部活動は自粛しています。会員の皆様はコロナ禍の中、健康に留意され過ごされているようにご推察されます。コロナ収束後には会員相互の親睦が従来通り図られることを願うばかりです。

せっかくの紙面ですので、現役後輩の活躍にペンを取ります。去る12月に相馬市内で開催された「相高ART展」を見る機会がありました。美術・文化活動の素晴らしい成果が展示されていました。かつて所属していた出版局の展示の前で、震災当時の新聞が目に入り足が止まりました。間もなく震災から十年目、いろいろな思いが巡りました。

## ●新地支部

令和2年3月、支部総会を目前にして発生した新型コロナ騒動。急遽役員会を開き総会延期を決めました。

事務局の今野先生からは、村山同窓会長、菊田校長先生も出席しますとの連絡を受け、会員皆楽しみにしていただけに残念でした。

当初、夏場頃には終息するのでは、との予測に反して、冬場に入ったこの時期も感染拡大が続いています。注意しましょう！

今年は事業計画で、町内の旧相馬女子高校、新地高校同窓会との交流会を計画していただけにとても残念でした。現在新地町は一人の感染者も出ていないので、油断せず継続し一日も早い終息宣言を願うばかりです。

受験生も在校生も厳しい状況は続くと思いますが共に乗り越えましょう。

頑張れ！　相高健児！

## ●京浜支部

京浜支部の本年度の活動についてご報告いたします。

正月の1月6日、母校が春高バレー全国大会に出場。会場の東京都調布市にある武蔵の森総合スポーツプラザに会員有志が応援に駆け付けました。結果は優勝候補の駿台学園（東京）に惜敗しましたが、熱い応援合戦に声を枯らしました。

3月7日、新型コロナの足音にもめげず理事会を日本プレスセンターにて開催。京浜支部報の発行、京浜支部総会の開催、相馬女子高同窓会東京支部との交流会の開催を決議致しました。

7月15日、京浜支部報第46号を発行いたしました。

馬城会会長村山正之氏、相馬高校校長菊田勇雄氏、相馬市長立谷秀清氏、南相馬市長門馬和夫氏からもご寄稿をいただきました。

しかしながら、10月と11月に予定されていた支部総会及び相馬女子高同窓会との交流会は新型コロナの蔓延により残念ながら中止とさせていただきました。

新年度は東京オリンピック開催の年です。京浜支部といたしましても何とか総会・交流会を開催して親睦を深めたいと考えております。

最後になりましたが、馬城会会員の皆様のご健勝と母校相馬高校の益々のご発展を祈念いたします。

## 相高ART展開催

於 相馬市民ギャラリー（相馬駅前）

美術部部長（2年）佐藤結樹音（ゆきの）

8日間の開催でしたが、こんなに多くの方に来ていただけるとは思っていなかったので、大変驚いています。見ていただいた方々から感想も多数いただき、これからの制作のモチベーションにしていきます。ご来場本当にありがとうございました。3月には南相馬市の銘醸館で地区高校美術書道展を開催しますのでぜひお越しください。

（3月1日　第1面と第4面　村山）